

実践報告

# 生涯にわたって、元気に過ごせる生徒を育てる学校保健 —主体的・対話的で深い学びの視点からの保健学習の授業づくり—

名古屋 有美子\* ・ 栗原 淳\*\*

School Health Education to Nurture Children and Students who can  
Live well for a Lifetime: Creating a Class for Health Learning from an  
Independent, Interactive and Deep Learning Perspective

Yumiko NAGOYA\* and Jun KURIHARA\*\*

## 【要約】

中学校保健学習において、自分の将来に向けた思春期の健康づくりのプラン作成をパフォーマンス課題とし、課題解決の学習過程を通して主体的・対話的で深い学びの実現を目指した。養護教諭の職務の特質や保健室の機能を活用して、生徒自身の生活実態を振り返らせることにより、課題を自分事として捉えさせた。また、参加体験型学習の展開や「問い」による対話活動により、班から学級全体へと段階を踏んだ意見交換のなかで、現実的な課題を情報や知識と関連付けて考えさせた。

## 【キーワード】

課題解決の学習過程, パフォーマンス課題, 参加体験型学習, 問い,  
養護教諭の職務の特質, 保健室の機能の活用

## 1 実践目的

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康にも大きな影響を与えており、子どもを取り巻く状況の変化や多様化・複雑化した課題に向き合うため、WHOの健康概念に基づいた学校保健の充実が求められている。保健室経営においてQOLの向上を目的とするヘルスプロモーションの考え方に基づいた方針や計画・手立てを作成し、児童生徒の自立を支援する学校保健活動を展開していく必要があると考える。

生涯にわたって健康な生活を送るためには、時代の変化に対応しながらも日常的に起こる健康課題に適切に対処できる力、つまり心身の健康の保持増進を図るために必要な知識・技能を身に付け、心身の健康にとって望ましい行動を選択する実践力を身につけることが重要である。

本校学校保健では、生徒が自他の心身の健康に関心を持ち、課題に気づき、健康な生活をするために何をすればよいのかを考え、必要な情報を収集・分析・選択して実生活に活用し、生活や社会を改善していくプロセスで、実践する力の育成を目指す。このことが、本校の研究で考える「主体的・対話的で深い学び」に関連し、「社会の変化に柔軟に対応し、よりよい社会・生活を築くことができる力」の育成につながっていくと考える。

## 2 実践計画

保健体育科保健分野において、中学校第1学年の単元「心身の機能の発達と心の健康」より題材「心の発達と健康」を取り上げ、主体的・対話的で深い学びを実現する手立てとして、以下の手順で実践に取り組んだ。

\*佐賀大学教育学部附属中学校

\*\*佐賀大学教育学部

- (3) 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための「課題解決の学習過程」を工夫する。
- (4) 「パフォーマンス課題」を軸とした学習内容や学習活動を検討し、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を活用する。
- (5) 「学びの姿を観るシート」「ふり返しシート」を作成・活用し、授業における観察者の記述や生徒の記述、授業者の生徒観察やワークシートの見取りから授業を検証する。

### 3 実践授業の事例

- (1) 単元名 心身の機能の発達と心の健康「心と体の関わり」
- (2) パフォーマンス課題 「自分の将来に向けて、健康づくりのためのプランを作成しよう」
- (3) 単元の概要

本単元では、心身の機能の発達のしかたと心身の健康を保持・増進する方法について学習する。題材「心の発達と健康」については、「精神機能の発達と自己形成」、「欲求やストレスへの対処と心の健康」、「生活行動・生活習慣と健康」を学習する。

小学校の学習では、いろいろな生活経験を通して、心が年齢に伴って発達すること、心と体は互いに影響し合うこと、不安や悩みへの対処には大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をする等いろいろな方法があることを中心として構成している。

中学校の学習では、精神機能は生活経験などの影響を受けて発達すること、思春期は、自己の認識が深まり自己形成がなされること、精神と身体は相互に影響を与え関わっていること、心の健康を保つには欲求やストレスに適切に対処することなどを中心として構成している。

中学生期は、心身の発育・発達の著しい思春期にあたり、不安や悩みをもち試行錯誤しながら生活する時期である。そこで、思春期の心身の変化についての科学的な根拠を踏まえた上で、対話などの他者との関わりの中で自分の生活を多面的・多角的に見つめさせたい。そして、自分の生活を振り返って改善点を見つけ、自分の将来に向けて健康づくりのためのプラン作成に取り入れる活動を通して、よりよい生活行動・生活習慣の実践化につなげたい。

- (4) 本校学校保健が期待する「主体的・対話的で深い学び」の姿

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
学校保健全体	・健康の意義等を発見し、健康についての興味や関心を高め、自己の生活と関連付けながら、課題の解決に向けて見通しを持って粘り強く自ら取り組んでいる。また、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりしている。	・健康についての課題の解決に向けて、生徒同士の協働、教師やゲストティーチャー等との対話、書物等の先人の健康観などを手掛かりにして考えることを通して、自己の思考を広げ深めたりしている。	・自他の健康についての課題を発見し、課題や情報を健康・安全に関する原則や概念に着目して捉え、情報の精査や知識の関連付けなどの試行錯誤を重ねながら思考を深め、生活の質の向上や健康を支える環境づくりなどでよりよく解決している。
本単元	・関心をもって資料を見たり自分の生活を振り返ったりするなど意欲的に取り組み、自分の健康づくりのプランに取り入れようとしている。	・思春期の心身の健康課題の解決方法を見つけたり選んだりするために、班活動での話し合いや意見交換などに意欲的に取り組みようとしている。	・心身の健康について、資料等で調べたことを自分たちの生活や事例と比較・分析し、科学的な根拠をもとに自他のプランを見直そうとしている。

(5) 単元で育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>・心身の発達と心の健康についての探究を通して、個人生活における健康の保持増進に関する情報を収集し、「⑰分類し」情報の吟味をすること。</p> <p>・情報を引用したり要約したりして、「⑳具体化・抽象化」し説明すること。</p>	<p>・話し合いによって発表構成を企画し、情報を効果的に活用して資料を作り、主張を明確に報告すること。</p> <p>・共感的・批判的視点で要点を聞き、記録すること。</p> <p>・多様な意見を「㉑比較し」「㉒多面的・多角的に見る」ことを通して、生活の工夫や改善の方法を「㉓推論」し選択すること。</p>	<p>・自分の生活を振り返り、学習で得た知識や技能を「㉔関連付け・構造化」して、自他の健康の保持増進のプランを企画し、主体的に取り組もうとすること。</p>

(6) 単元の指導目標と評価規準

① 単元の指導目標

心身の機能の発達や心の健康について、中学生の時期の特徴や健康の成り立ちなど科学的な知識と自分たちの生活や事例とを関連付けさせて、自他の健康課題に気づかせ、思春期の健康課題の解決の方法を見つけて適切な方法を選ばせる。

② 単元の評価規準

ア 心身の機能の発達や心の健康について、資料を見たり自分たちの生活を振り返ったりするなど関心をもち、話し合いや意見交換などに意欲的に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】

イ 心身の機能の発達や心の健康について、資料等で調べたことを自分たちの生活や事例と比較・分析し、科学的に筋道を立てて考え、課題解決の方法を見つけ選んでいる。

【思考・判断・表現】

ウ 心身の機能の発達や心の健康について、中学生期の特徴や健康の成り立ちなど科学的な知識を身につけ、課題解決に役立つ基礎的な事項と自分たちの生活との関わりを理解している。

【知識・理解】

(7) 単元の授業過程（全12時間）

過程	生徒と教師の双方が共有する、毎時間のめあて
導入	第1時：「健康」「思春期」の定義について、WHO 憲章や発育急進期の特徴や小学校で学習したことと自分たちの生活の振り返りを関連付けて、これからの学習の見通しをもとう。
	第2時：将来に向けての健康づくりについて、自分たちの健康生活の問題点を分類し関連づけて整理し、思春期の健康課題を見つけ、探究のテーマを設定しよう。
展開	第3時：体の各器官の発育・発達の仕方について、「スキャモンの発達・発育曲線」から特徴を見つけ、思春期の健康課題に関連付けて、望ましい食生活の方法を提案しよう。
	第4時：思春期の健康的な運動の取り入れ方について、呼吸器・循環器の発達と関連付けて、生活の中で運動効果を高める方法を提案しよう。
	第5時：思春期の健康的な休養・睡眠の取り方について、睡眠のメカニズムを多面的・多角的に見ることを通して、生活の中で睡眠の効果を高める方法を提案しよう。

展 開	第6時：思春期の体の変化や生殖機能の仕組みについて、資料を読み取り自分の体についての悩みや不安を振り返って、生殖機能の成熟がもつ意味について書き出してみよう。
	第7時：思春期における性意識の変化や性情報への対処について、トラブルや被害の具体例について検討し、適切な態度や行動の選択、性情報への対処の仕方を提案しよう。
	<b>第8時：心と体の関わりについて、これまでの体験の振り返りと神経やホルモンの働きとを関連付けて、心と体が影響し合う仕組みについて説明しよう。</b>
	第9時：心の発達について、知的機能・情意機能・社会性の発達と自分の行動の変化を振り返ることを通して、周りの人とのよりよい関係の持ち方を提案しよう。
	第10時：自己形成について、これまでの体験や仲間の意見から現在の自分自身を多面的・多角的に見つめることを通して、理想の自分になるために取り組むことを提案しよう。
	第11時：欲求不満やストレスへの対処の仕方について、コミュニケーションの実習を通して体験したことを話し合い、よりよい対処の仕方を提案しよう。
展 望	<b>第12時：自分の健康生活を振り返り、学習で得た情報を関連付け・構造化して、自分の将来に向けて健康づくりを企画しプランを作成しよう。</b>

(8) 本時の授業

① 本時の指導目標

心と体は、相互に影響を与え、関わっていることについて、学習したことや自分の経験、友達の意見などを基に気づかせ、神経やホルモンの働きと関連付けて心と体が影響し合う仕組みについて意見交換をさせる。

② 本時の評価規準

ア 心と体の関わりについて、資料を見て説明を聞いたり自分たちの生活を振り返ったりするなど関心をもち、課題解決に向けた話し合いや意見交換などに意欲的に取り組んでいる。

【関心・意欲・態度】

イ 心と体の関わりについて、資料の説明や意見交流からの情報を関連付けて、自分たちの生活の課題を見つけ、解決方法を考えて説明しようとしている。

【思考・判断・表現】

(9) 本時の授業過程【全12時間 本時 8/12】

過程	学習活動と内容	形態	教師の指導・支援	評価とその方法
導 入	1 本時の学習課題と学習の流れを確認する。	斉	1-(1) 本時の見通しをもたせる。 1-(2) アンケートの結果から、心が健康な状態とはどのようなことなのか意識させる。	
	めあて：心と体の関わりについて、これまでの体験の振り返りと神経やホルモンの働きとを関連付けて、心と体が影響し合う仕組みについて説明しよう。			

展 開	2 発表班の発表を聞いて心と体の関わりについて知る。	斉	2-(1) 発表班の主張を紹介させる。 2-(2) 説明の要点を聞いて記録させる。 2-(3) 発表された内容に対し質問、回答をさせる。	ア 資料を見て説明を聞いたり自分の生活を振り返ったりしている。【観察】  イ 情報を関連付けて課題を見つけ、解決方法を説明しようとしている【観察・学習シート】 ア 話し合いや意見交換に意欲的に取り組んでいる。【観察】
	3 心と体の関わりについて、神経やホルモンの働きについて知る。	斉	3-(1) 神経やホルモンによる影響について説明する。 3-(2) タバコの依存症を例に発展的事項を補充説明して、理解を深めさせる。	
	4 心と体が影響し合う仕組みについて検討する。	個	4-(1) これまでの体験を振り返らせ、心と体の関わりを関連付けて考えさせる。 4-(2) 個人の考えを記入させる。	
	5 班、学級で意見を交流して考えを伝えあう。	G 斉	5 意見交流を通して、多面的・多角的にとらえさせる。	
	6 健康プランに盛り込みたいことをまとめる。	個	6 学習を振り返らせ、生活に生かすことや心の健康について学習を進めたいことを記述させる。	
展 望	7 本時の学習を振り返り学習の自己評価をする。		7 課題に対する考えを授業の始めと比較させ学習の自己評価をさせる。	

#### 4 授業の実際

##### (1) めあての設定と振り返り

学校保健では、生徒が問題点を発見し、その課題解決を図る主体的・協働的な学習過程を構想し、6段階からなる課題解決の学習過程を組んでいる(表1)。

本単元では、第1段階では、学習内容と関わりのある健康に関する現実の問題点を生徒に挙げさせ、学習課題を

表1 学校保健が考える課題解決の学習過程

- ・自他の健康に関する問題点に気づき、課題を設定する
- ・課題への対処や解決の見通しをたてる
- ・健康情報の収集・分析・選択をする
- ・課題解決に必要な知識・技能を確認する
- ・課題の解決、生活への適用の方法を考え、交流する
- ・学習活動を振り返り、実践への見通しを持つ

共有化した。第2段階では、「身につけたい資質・能力」「学ぶべき学習内容」「行う予定の学習活動」について提示するとともに、課題への対処や解決に向けての自分の考えの見通しを持たせた。3段階では、探究活動や発表聴講によって必要な情報を獲得させた。4段階では、他者との交流の中で知識の整理と技能の確認をさせ、第5段階では、さらに他者との交流を重ねながら課題の解決方法を探らせ、自分の考えを再構成させた。第6段階では、学習の振り返りを行い、生活での活用など実践化への見通しを持たせた。

毎時間の学習では、めあてとして、「何を学ぶのか(学習内容)」「(どのように学ぶのか)学習活動」「何ができるようになるのか(資質・能力)」を提示した。学習のめあてを生徒と授業者が双方で共有することによって、課題解決に向けた手順や形態等、学習に見通しを持たせることができ、生徒を主体的な学びへ向かわせることができると考えた。

学習の振り返りについても、めあてに正対して、「何を学び」「どんな活動をして」「何ができたのか」を確認させ、「次の時間への見通し」や「新たに気付いた疑問や発見した課題」などを記述させた。自分自身の学びを客観的に見つめさせ、次の主体的な学びや生活での実践化などの深い学びへとつながると考えた。

#### (2) 生徒の課題解決への意欲を高めるパフォーマンス課題の設定

本単元では、パフォーマンス課題を「自分の将来に向けて健康づくりのためのプランを作成しよう」と設定した。

単元導入の第1時は、「健康」「思春期」をキーワードに単元に対する興味や関心の啓発をねらった。自分の将来の「健康」についてのイメージを絵や図、文章など自由な表現方法で想起させ、小学校での既習事項を振り返らせて、健康づくりのプランを考えさせた。そして、WHO憲章と健康寿命を題材として「健康」の定義について捉えさせ、発育急進期の特徴と生徒の実際の発育測定の結果を示して、生徒自身が「思春期」真只中にあることに気づかせた。パフォーマンス課題については、本単元での思春期の心身の変化についての学習を通して、自分の生活を振り返り、具体的な改善点を見つけ、自分の将来の健康目標の実現をめざしたステップアップした思春期の健康づくりのプランを作成していくことを予告した。

#### (3) 生徒参加の授業づくり

班活動を中心とした参加体験型学習を展開し、一方向の知識伝達型の学習ではなく、生徒が興味・関心を高め、学習活動への自ら取り組むことを通して、主体的・対話的で深い学びへと導くことを考えた。

単元の第2時では、班活動にて「健康」「思春期」についての関心や疑問についてKJ法で表現させ、探究課題として9つのテーマを決定させた。

探究活動については、夏休み期間中に個人または班の計画で行わせ、各自でレポートを作成させた。文献研究、インタビュー、アンケート集計等、自由な発想で探究を行い、レポートを完成させていた。2学期からは、レポートをもとに班活動で報告の内容と方法を再検討させ、他のクラスと同じテーマを担当している班との交流をさせながら、発表資料をまとめ作成させた。

単元の授業過程の第3～11時は、進行班と発表班の企画・運営により授業を進行させた。発表班にはスライドやポスター、ワークシート等の自作資料を用いてプレゼンテーションを行わせ、科学的な情報や知識・技能の確認をさせた。さらに課題を解決するための実生活での対処の仕方を考えさせたが、その際は、班活動での意見を交流させ、さらに学級全体で意見を交流させた。生徒間の対話や養護教諭との対話を通して自分の生活や事例を振り返らせ、比較や関連付け等の思考操作を行いながら自分の生活にあてはまる現実的な実践方法を推論させることをねらった。

生徒の班活動は、単元導入部分においてKJ法を用いた話し合い活動を行う他、探究課題決定から探究活動、発表準備のための資料作成やリハーサルなど、発表班としての活動においても行った。また、授業については、担当の進行班が事前に授業者と打ち合わせ、発表班と協力して授業を企画し司会・進行等を運営するなど、授業過程全般にわたって生徒主体で行わせた。生徒が主体的・協働的に役割を果たし、その成果を共有し合う体験により、それぞれの自己肯定感の高まりもねらった。これらの学習は、将来において社会の課題の解決に向けて参画していく資質や能力の育成にもつながるものと考えた。

#### (4) 問いを視点とした対話

授業の中盤に行う「問い」では、課題を自分のこととしてとらえさせ、課題解決のための実生活での対処の仕方を考えさせるようにした。



本時では、問い「心と体が影響し合っとうまくいった経験や失敗した経験を振り返って、心と体が影響し合う仕組みについて説明しよう。」について、自分の経験や友達の意見などを基に、心と体が神経やホルモンを通して相互に影響し合う仕組みについて意見交換をさせた。生徒は、心から体への影響、体から心への影響に分類し、場面を設定して自分の事例を振り返り、それぞれが良い影響なのか悪い影響なのかを推論していた。心と体の関わりを捉える視点の違いによって、多様な意見が交換されていた。

本時において、心と体の関わりについて多面的・多角的に見た意見を交換させたことは、今後の「欲求と欲求不満への対処」「ストレスとストレスへの対処」での学習において、悩みや不安などの問題への対処の仕方についての生徒の思考に広がりや深まりが生まれ、より適切な判断を導くことにつながるものと考えられる。

また、生徒同士の話し合いや報告などで対話を意図的に組み込むことにより、生徒は自分の経験や知識と他者からの情報とを結び付けながら思考し、自分の理解の状態を確認しながら学習が進められる。さらに、自分の考えの表現機会や学び合いによる相互のコミュニケーション活動により、自他の理解と尊重を育む基盤ともなると考える。

#### (5) 養護教諭の行う保健学習

養護教諭が保健学習に関わる際は、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を活かすことが求められる。具体的には、児童生徒の保健室での体験、保健室での個別指導で養護教諭が捉えた課題や情報、健康観察・健康診断の結果等、保健室の施設・設備・教材・資料等の活用などである。

本単元での養護教諭単独による保健学習では、健康についての原則や概念の説明や、学習内容について発表班の提供する情報に対する補充的・発展的な説明をした。健康に関する現代的課題である、生活習慣病、性に関する情報の氾濫、性の商品化、夜型化傾向によるライフスタイルの変化、心の問題や、最近の保健衛生学的事象等の他、養護教諭が把握している本校生徒の健康実態や日常的な保健室での事例を取り上げた。

これらの事項を養護教諭が集団に対し直接的に働きかけることで、健康課題を他人事のように捉えて関心をもてずにいる生徒が、課題を自分のことや身近なこととして捉え、自分自身の心身の健康状態を見直してみる意欲に結びつくと考えられる。また、生徒自身が健康の保持増進への取り組みについて保健室や養護教諭のもとで確認したり実践したりすることも期待している。

### 5 実践結果と考察

#### (1) 生徒の振り返りシートの分析

生徒の「振り返りシート」では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に関わる4項目について、4件法（『4：よくできた』『3：だいたいできた』『2：あまりできなかった』『1：ほとんどできなかった』）で評価させ、その理由等について自由記述させた。

主体的な学びに関わる「自分事としての課題発見」については、「思春期の心身の発達と心の健康について、パフォーマンス課題と関連付けて、関心を持って発表を聞いたり、これまでの自分の体験を振り返ったりして、自分の健康づくりのプランに盛り込むことを考えることができましたか」と質問した。生徒の評価は平均3.6で、『よくできた』生徒が61.4%、『だいたいできた』生徒が38.6%であった（図1）。単元導入の授業で、小学校での既習事項と自分の今の健康状態を振り返らせ、自分の将来の健康目標を立てさせたので、パフォーマンス課題である健康づくりのプラン作成のイメージを持たせることができたと考えられる。また、毎時間、導入時等にその日の学習テーマに関連した本校生徒の実態を示すアンケート結果等を使用しており、生徒に自分の体験や生活を振り

返らせ、それを学習内容と関連付けて自分の生活を改善するプランを考えさせることができたと考える。

対話的な学びに関わる「協働性」については、「思春期の心身の発達と心の健康について、自分の考えを説明したり友達の意見を確

認したりするなかで、多面的・多角的にとらえて、根拠を基に考えを再構築したり、文章化してまとめたりすることができましたか」と質問した。生徒の評価は平均3.6で、『よくできた』生徒が54.4%、『だいたいできた』生徒が45.6%であった(図2)。

対話によって1つの事柄についても多様な意見を聞き、「意見を比較し、多面的多角的に捉えることができた」「根拠をもとにまとめることができた」「意見をうまく伝えられない場合は、根拠があいまいだからだと気付いた」「うまく考えられない部分は、種類分けして考えるとよいことに気づいた」と答えている。

自分の考えを文章化すること、説明することに難しさを感じている生徒もあり、B-Timeで学習する思考のモデルや発表や説明をする際の話型を示し、意識的に活用させる場面を増やす必要があると考える。

深い学びに関わる「習得・活用」については、「思春期の心身の発達と心の健康について、学習した内容を生かしながら、心も体も健康に過ごしていくために、今の自分の生活の中で取り組めることについて考えることができましたか」と質問した。生徒の評価は平均3.7で、『よくできた』生徒が71.9%、『だいたいできた』生徒が28.1%であった(図3)。

授業中盤に示す問いについては、生徒の実際の生活行動や生活習慣の問題点に関連した問いを出題し、生徒間の対話のなかで自分の生活にあてはまる現実的な実践方法を推論させるようにした。そのため、授業で学習したことをすぐに生活で取り組める、または既に取り組んでいることをさらに効率よく改善できるという実感を持たせることができたと考える。

主体的な学び・深い学びに関わる「課題や展望」については、「思春期の心身の発達と心の健康について、学習した内容を生かしながら、生涯にわたって心も体も健康に過ごしていくために、私

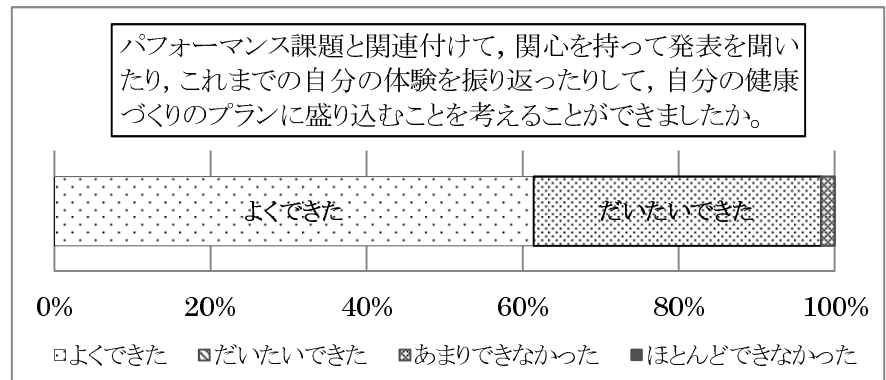


図1 自分事としての課題発見について

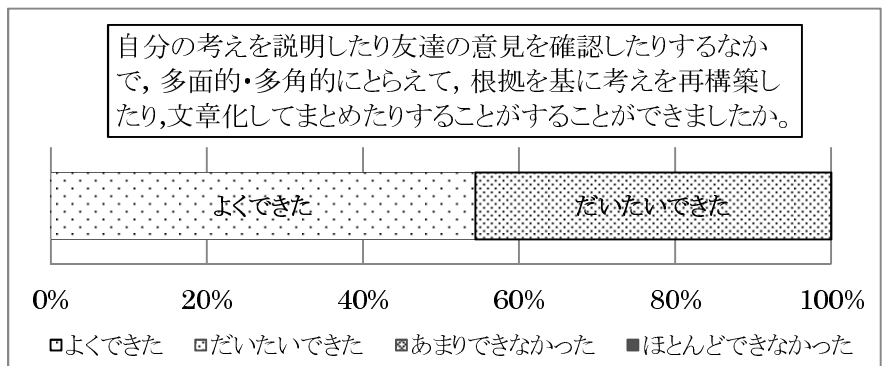


図2 協働性について

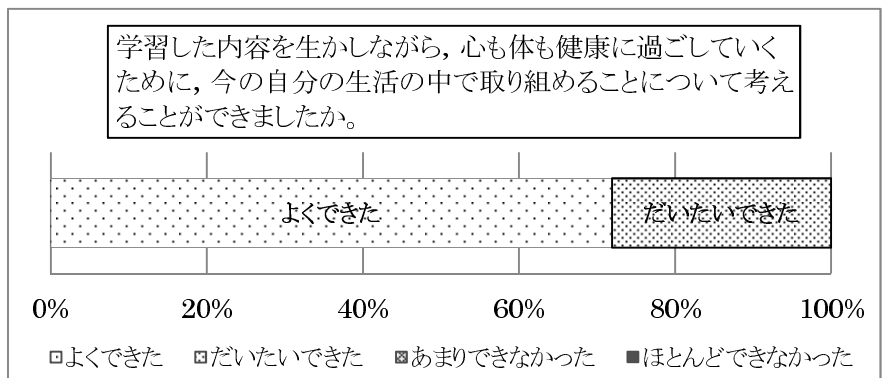


図3 習得・活用について



「私たちが考えなければならない課題やこれから学習を進めたいことを見つけることができましたか」と質問した。生徒の評価は平均3.6で、『よくできた』生徒が57.9%、『だいたいできた』生徒が38.6%、『あまりできなかった』生徒が3.5%であった(図4)。

『あまりできなかった』と答えた生徒2名は、「これから学習を進めたいことをまだ見つけることができている」とコメントしている。パフォーマンス課題の完成に向かう中で保健の見方・考え方にあるように「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え」させ、自分の健康づくりと関連づけさせる手立てが必要であると考えます。

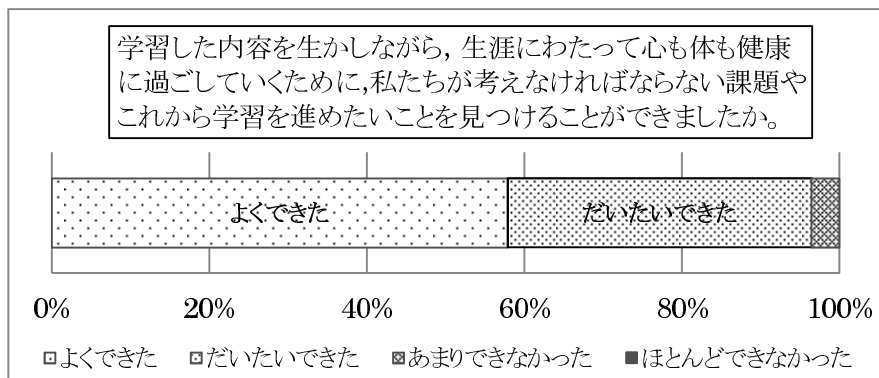


図4 課題や展望について

(2) 参観者・観察者シートの分析

参観者のアンケートの回答では、「生徒が授業を進めるという形がとても参考になった。」「生徒が受動的になりやすい保健で、生徒の対話がみられ活発な授業となっている点が良かった。」「学びの姿が素晴らしく活発な意見交換がされており、対話的で深い学びの姿がみられた。」「大人もびっくりするような意見もあり、さすがだなと思った。」などの意見がみられた。

分科会での協議においては、問い「心と体が影響し合っとうまくいった経験や失敗した経験を振り返って、心と体が影響し合う仕組みについて説明しよう。」を班で意見交換させた場面について、「よい影響かわるい影響かの判断に言及してしまい、影響し合う仕組みについては十分な意見交換がされていない班があった。よい影響ともわるい影響とも捉えられることもあり、分類して示す必要はないのではないか。」と指摘された。心と体が影響し合っていることを多面的・多角的に捉えられる視点として、生徒には事例の場面設定をした上でよい影響とわるい影響とを考えるよう指示していたため、該当した班の生徒は、視点の違いによって捉え方が異なることに気づいていたと考えられる。しかし、このことを学級全体でのクロストークの段階で発表させることができなかった。この機会を生かして、学級全体での意見交流を活性化できれば、生徒の思考に揺さぶりがかかって思考に広がりや深まりが生まれると思われる。そのためには、進行班の生徒の役割の活用、授業者の的確な次なる「問い」の投げかけが必要であると考えます。

(3) 「生徒」「参観者・観察者」「授業者」の三者を総合した分析

「主体的な学び」の実現のためには、めあてと振り返りが重要であると考えます。毎時間の授業についてはめあての設定によって、単元についてはパフォーマンス課題の設定によって、学習の見通しが持てるため生徒も関心も持ちやすい。課題の設定については、健康の現代的課題や生徒の生活上の問題点をもとに既習事項や生活実態を踏まえて、生徒が自分自身の課題として取り組めるものにする必要がある。振り返りについても、学習の経験により身に付いたことを生徒自身がメタ認知するとともに、新たな課題を発見し次のめあてへ主体的な関わりへとつながっていくものにする必要がある。

「対話的な学び」の実現のためには、班活動を中心とした参加体験型学習と「問い」を視点とした対話の仕掛けが有効であると考えます。班単位の学習活動においては、それぞれの生徒が役割をもった活動により主体的な学びも促されるが、生徒同士や授業者とのコミュニケーションが常に行わ

れ、話し合い活動などの対話的な学習活動への基礎がつくられていると考える。そして、学習課題を基にした「問い」により、課題を自分のこととしてとらえさせ、視点をより明確にした対話へ導くことができると考える。ただし、自分の考えを文章化し説明することに難しさを感じている生徒もおり、B-Timeで学習する思考のモデルや、発表や説明をする際の話型を示し、意識的に活用させる場面を増やしていく必要があると考える。

「深い学び」の実現のためには、学習し身に付いた力を実際の健康生活で実践化できるようにし、自ら生活をよりよく改善していく手ごたえを感じさせることが必要である。個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉えさせ、自分の健康づくりと関連づけさせる手立てが必要だと考える。対話的な学びをさらに活性化し多様な見方や考え方にふれさせることで、生徒の思考に揺さぶりが起こり、思考の広がりや深まりから自らの次の課題発見へとつながると考える。そのためには、授業においての的確な「問い」の設定が必要であると考え。

## 6 まとめ

本単元では、自分の将来に向けて思春期の健康づくりのためのプランを作成することをパフォーマンス課題とし、課題解決の学習過程を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した。

パフォーマンス課題・めあての設定とふり返りの実施、養護教諭の職務の特質や保健室の機能の活用、小学校既習事項のふり返りにより、課題を自分のこととして捉えさせ、自ら課題解決の方法を考えさせる主体的な学びにつながったと考える。また、企画・運営に生徒が関わる参加体験型学習の展開や「問い」の設定により、生徒自身の健康課題の事例を振り返らせ、実生活での現実的な課題解決の方法を班員との話し合いや学級全体での意見交換のなかで情報や知識と関連付けて考える、対話的な学びにつながったと考える。

一方、深い学びの実現のためには、個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉えさせ、自分の健康づくりと関連づけさせる手立てが必要である。授業においての的確な「問い」の設定により、対話的な学びを活性化し多様な見方や考え方にふれさせることで、生徒の思考に広がりや深まりをもたせ、自らの課題発見へとつなげていくことができるのではないかと考える。

## 【参考文献】

- 教員養成系大学保健協議会編，2014，『学校保健ハンドブック』，ぎょうせい
- 佐賀大学文化教育学部附属中学校，2017，『研究紀要第4号』
- 日本学校保健会，2001，『養護教諭の特性を生かした保健学習・保健指導の基本と実際』
- 松本敬子共著，2001，『養護教諭の授業づくり』，東山書房
- 文部科学省，2014，『生きる力を育む中学校保健教育の手引き』
- 文部科学省，2017，『中学校学習指導要領解説 保健体育編』